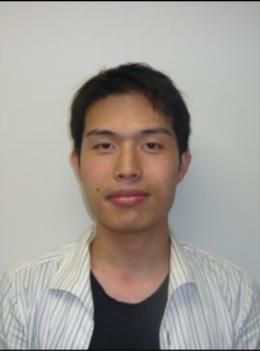


特定非営利活動法人 日本免疫学会
 平成 30 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
 研究発表報告書

申請者氏名	半谷 匠	会員番号	0034910	
申請者の所属・職名	東京大学生産技術研究所 炎症・免疫制御学社会連携研究部門 特任助教			
出席会議名	Cytokines 2018, 6th Annual Meeting of the International Cytokine & Interferon Society (ICIS)			
発表論文タイトル	Prostaglandin E2 is an inhibitory damage-associated molecular pattern which critically regulates sterile inflammation-related diseases induced by dead cells			

実施結果:

Cytokines 2018 は、国際インターフェロンサイトカイン学会 (ICIS) の主催する年会であり、今回で 6 回目を迎える。前回第 5 回は日本の金沢で行われ、私も参加させて頂いた。その際、非常に活気ある学会と感じたため、今回もぜひ参加したいと思うに至った。

今年アメリカ合衆国はマサチューセッツ州、ボストンで開催された。ボストンはハーバード大学、マサチューセッツ工科大学 (MIT) を始めとした、世界でもトップクラスのアカデミアがひしめく都市であり、また世界各国の製薬会社の研究所がこれらの大学施設を取り囲むように林立している。聞くに、物理的な距離の近さに加え、アカデミアと産業界の人材交流も盛んであり、理想的な産学連携を体現しているように思われた。

学会会場にはこれらの在ボストン機関の関係者に加え、アメリカ、特にニューヨークなどの東海岸の都市からの参加者が多いように思われた。ヨーロッパ勢も相当数いるように思われたが、一方で日本も含めたアジアからの参加者は、距離的な問題もあるのか比較的僅少であるように感じられた。

シンポジウムの内容は多岐に渡っていたが、直前の本庶佑先生、James P. Allison 先生のノーベル医学生理学賞受賞の影響もあり、免疫チェックポイント療法に言及する演者が多かった。また、岸本忠三先生の 2018 ICIS Distinguished Service Award の受賞もあり、改めて本分野における日本の先生方の貢献の大きさを実感した。

私は prostaglandin E2 が、死細胞から放出される免疫抑制性の Damage-associated molecular pattern (DAMP) 分子であり、その疾患における役割や応用面における可能性を強調したが、質問はむしろ研究の方法論や、分子メカニズムに関するものが多かった。個体レベルの表現型とか、疾患における意義に興味傾きがちな自分の性向を改めて自覚し、今後の研究の方向性を考える上で、よい経験となった。

学会の空き時間を利用して、知己を辿り Broad Institute で行われている depmap project、および Dana-Farber Cancer Institute の Thomas Look lab の見学をさせて頂いた。depmap project は数百種のヒトがん細胞株に対して、CRISPR screening を行うことで特定の遺伝的特徴をもつがん種の dependency を網羅的に理解しようという野心的な project である。また Thomas Look lab は oncogenic super-enhancer の先駆的な研究で知られている。いずれも研究資金の規模の大きさ、Scientist のレベルの高さ、共同研究の活発さをまざまざと見せつけられた。こうしたレベルのラボと鎬を削らなくては行けないという現実を直視し、精進しようと思った。

余談であるが、アメリカ料理にはみるべきものは多くないという偏見を頂いていた私にとって、ボストンで体験したクラムチャウダーとロブスター料理は、評判以上に美味しかった。食に加え、ボストン近郊には北米 4 大プロスポーツ各チームの本拠地があり、エンターテインメントも充実している。治安もよく、非常に魅力的な街であった。

学会やラボ見学を通じて、活況を呈している本分野およびボストン地区の現状を実感することが出来、多いに刺激を受けた。このような機会を提供して下さった岸本忠三先生、日本免疫学会に改めて感謝申し上げます。